

3. 教育の現場におけるEMIR実践事例 ～取組の位置づけ～

25

総合的學生情報データ分析システム

EM部 及び

総合的學生情報データ分析システム・ワーキンググループによる分析



最終報告

山形大学御中

山形大学地域教育文化学部の学生の
入試形態・就学状況・進路状況の相互関連要因
に関する基本的調査

2016年6月10日

3. 教育の現場におけるEMIR実践事例 ～学部における分析結果の活用～

27

- 山形大学地域教育文化学部におけるIR調査は本学EM部と連携して実施している。本年度で4年目となる。
- 本年度(2016年度)の卒業生全員に対して「進路アンケート」は、2017年1月31日(火)の卒業論文等の提出時に実施する。卒業論文のほか卒業作品等の提出に合わせて進路アンケートを実施し、1月時点での進路捕捉率を向上させた。現在ほぼ100%の捕捉率となっている。
- ねらい：入試・修学・進路の相互の関わりを知ることにより、学部レベル、コースレベル、研究室レベルの学生個々へのオリエンテーション・指導に生かす。
- 調査結果の説明及び配布：学部教員全員への調査報告書の配布及び教授会・委員会での担当委員による説明を通して調査内容の共有化をしている。
- 2年生及び3年生の「保護者保護者懇談会」において、GPAと就職の関連などについて、調査結果に基づいて、情報の提供を行っている。
- EM部と「進路アンケート」調査の項目について、打ち合わせを緊密にし、改善を図っている。

IR(総合的学⽣情報データ分析)平成27年度調査のポイント

1. データから見える全体的傾向

【学部全体の基本的傾向：経年比較】

- ・出身県構成比（学部全体） [「山形県」出身者が年々減少傾向にある【リンク①】](#)
【2013年度】48%【2014年度】43%【2015年度】41%
- ・進路決定率・進路決定率は上昇傾向にある
【2013年度】80%【2014年度】83%【2015年度】85%

【学部全体のGPA傾向】

- ・学部平均GPAは2.8。GPA3.0以上の学⽣が4割超
- ・全体として、GPAは1年後期が底辺となり、その後3.0に近づく

【入試形態とGPA：全体的傾向】

- ・推薦入試のGPAは高い
- ・前期入試：1年後期の下がり大きく、2年前期での立ち上がりも大きい
- ・後期入試：1年後期の下がり少なく、2年後期で前期入試の学⽣のGPAに追いつく

【就職関係の学部全体の傾向】

- ・入学時の志望通りの進路に就いた卒業生は44%（前年度【2014年度】49%）
- ・学部全体では、「教員」を入学時点で志望49%→そのうちの31%が教員に就職

2. 教員採用に関する分析から

【過去2年間との比較】

- ・ 志願者と採用者の関連：全学生における志願者の割合は2014年度と同水準
【2013年度】 24% 【2014年度】 28% 【2015年度】 29%
- ・ 志願者に対する採用率は2014年度に比べ大幅に上昇
【2013年度】 53% 【2014年度】 51% 【2015年度】 64%
- ・ 出身地と採用可否の関連：山形県出身者採用率は3年連続で全体平均を上回る
【2013年度】 56% 【2014年度】 53% 【2015年度】 77%
- ・ GPAと採用可否の関連：

GPAランクが3.0を境に大きく教員採用率が異なる傾向（3年連続の傾向） 【[リンク②](#)】

GPAとの関連：GPA3.0以上の採用率は80%と全体64%に対して高い

【就職支援関係】

- ・ 教員採用試験対策セミナーと採用可否の関連：教採面接セミナーは参加回数が増えるほど、採用率が高くなり、5～7回参加者の採用率は81%となる 【[リンク③](#)】
- ・ 教採対策全国公開模試参加者の採用率は全体64%に対して75%と高い
- ・ 教採面接セミナー（ガイダンス）の参加有無が教員採用に最も大きく寄与する
- ・ 教採面接セミナーに参加しセンター試験（外国語）が135.2点以上の学生の採用率は100%

【教員採用と入試形態の関連】

- ・ 入試区分と採用可否の関連では、入試区分ごとの傾向の差異はみられない

3. 公務員採用に関する分析から

【過去2年間との比較】

- ・志願者と公務員採用者の関連:

志願者の割合は3年間で最低水準

【2013年度】14%【2014年度】17%【2015年度】12%

- ・志願者における公務員採用率は2014年度と同水準

【2013年度】55%【2014年度】59%【2015年度】59%

- ・入試区分と公務員採用可否の関連

2年連続で「推薦入試」の採用率が全体平均よりも高い

【2014年度】63%【2015年度】100%

一方、2年連続で「後期入試」の採用率が全体平均を下回る

【2014年度】44%【2015年度】40%

- ・GPAと公務員採用可否の関連 【[リンク④](#)】

過去2年間ではGPAランクが高くなるほど採用率も上昇する傾向がみられたが、今年度はGPA2.5～3.0の採用率が最も高かった。

早期に単位取得を済ませた学生は公務員になりやすい傾向あり

3. 教育の現場におけるEMIR実践事例 ～学部における分析結果の活用～

31

4. 一般企業に関する分析から

【過去2年間との比較】

- ・一般企業就職者と就活:

一般企業にしぼった就職活動が内定につながる傾向(3年連続)

- ・入試区分と採用可否の関連:

「推薦入試」の一般企業採用率が全体平均よりも高い(3年連続)

【2013年度】55%【2014年度】47%【2015年度】51%

- ・出身県一般企業採用の関連:

「教員」「公務員」採用者と比べ、地元採用が少ない傾向(3年連続)

【2013年度】34%【2014年度】42%【2015年度】37%

- ・GPAと優良企業の関連: 【[リンク⑤](#)】

2014年度はGPA3.0以上の学生において優良企業採用率が高く、優良企業採用者のGPAはその他一般採用者よりも高い傾向がみられた。

今年度は優良企業採用者のGPAがその他一般企業採用者に比べて高いとはいえない。
優良企業採用の要因はGPA以外にあるといえる。

以上が、3. 教育現場におけるEMIR実践事例（山形大学地域教育学部の事例）です。 ご清聴ありがとうございました。

2. 対象とするデータから見える基本情報（2/10）

- ✓ 全体としては、山形県・宮城県の出身者が全学生の約70%を占めている。
- ✓ 前期入試は山形県外からの入学が75%と多い。
- ✓ 前期入試は「食環境デザイン」「音楽芸術」「造形芸術」が県外出身者が多い。

投影のみ

3. 教育の現場におけるEMIR実践事例 ～学部における分析結果の活用～

33

3. 教員採用に関する分析 (5/12)

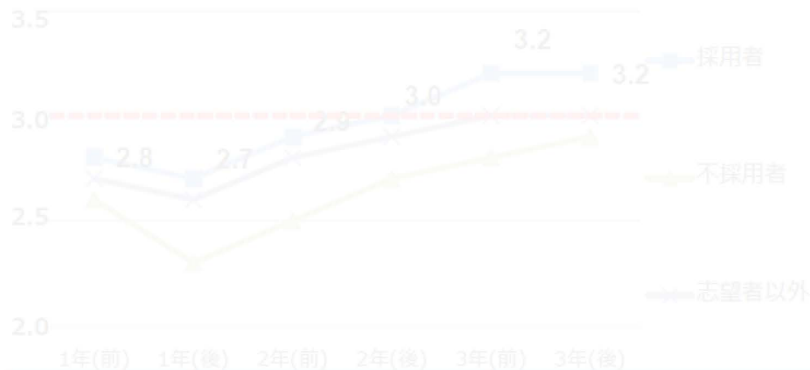
- ✓ GPAランクと採用可否の関連では、ランクが高いほど採用率は上昇し、GPA 3.0を境に採用率に差が生じる。
- ✓ GPA推移と採用可否の関連では、採用者のGPAは不採用者を常に大きく上回る。
- ✓ 取得単位数と合否の関連では、採用者は2年後期の取得単位数が多い。

■ GPAランクと採用可否の関連



投影のみ

■ 採用可否別 平均GPA推移



■ 採用可否別 平均取得単位数推移



28

[リンク前に戻る](#)

3. 教育の現場におけるEMIR実践事例 ～学部における分析結果の活用～

34

3. 教員採用に関する分析（6/12）

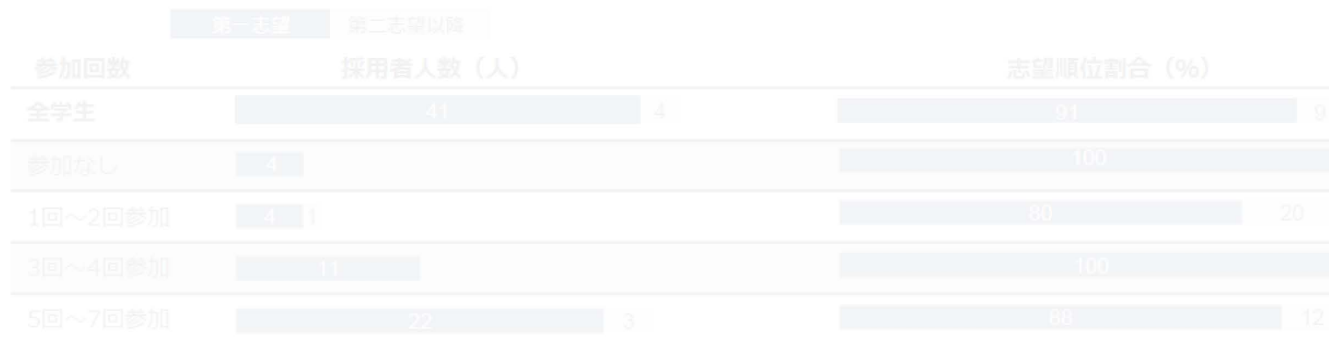
- ✓ 教採面接セミナー参加回数※1が多くなるほど、採用率が高くなる。
- ✓ 教員採用者における教採面接セミナーと志望順位との関連においては、参加回数による傾向の差異がみられない。

■ 教員志願者における、教採面接セミナー参加回数と採用可否の関連



投影のみ

■ 教員採用者における、教採面接セミナーと志望順位※2の関連



※1：ガイダンスを含めて全7回とする

※2：志望順位は、該当進路内での志望順位

29

3. 教育の現場におけるEMIR実践事例 ～学部における分析結果の活用～

35

4. 公務員採用に関する分析（4/8）

- ✓ GPAランクと採用可否の関連では、GPA 2.5～3.0の採用率が全体59%に対し69%と高い。
- ✓ GPA推移と採用可否の関連では、採用者のGPAは2年後期以降3.0以上を推移する。

■ GPAランクと採用可否の関連



投影のみ

■ 採用可否別 平均GPA推移



■ 採用可否別 平均取得単位数推移



43

3. 教育の現場におけるEMIR実践事例 ～学部における分析結果の活用～

36

5. 一般企業採用に関する分析（4/11）

- ✓ GPA 3.0以上の優良企業※採用率は全体38%に対し36%（13人）であり、GPAが高いほど優良企業採用率が上がるとはいえない。
- ✓ 優良企業採用者のGPAはその他一般企業採用者に比べて高いとはいえず、優良企業採用の要因は成績以外にあるといえる。

■一般企業就職者における、GPAランクと優良企業採用の関連



投影のみ

■一般企業就職者における、平均GPA推移と優良企業採用の関連

